



コロナ禍にあって わたしたちに出来ることは

学校法人 北海道カトリック学園
理事長 勝谷 太治



このように改訂の背景には、「何が起ころかわからない世の中」と言われているこれからの社会において「答えがみつからない問題」に向き合い、み

このような社会を生きていくためには、様々な情報から世の中で起きていることを的確にとらえる姿勢、多様な価値観を受け入れ、みんなにとって「番良い方法を探る柔軟な考え方、自分の考えを相手に伝

一向に終息の気配が見えない、新型コロナウイルス感染症。その影響は確実にわたしたちの身近に迫っています。当学園内では、昨年、感染者や濃厚接触者の報告が数件ありましたが、今年に入りそれが頻繁になっ

入りが頻繁になっ

濃厚接触者の追跡や消毒作業、休園休校の為の様々な手配ということだけでなく、いかにして感染者や濃厚接触者を守るかです。感染者や濃厚接触者を特定しようとする犯人捜しのようなことが行われ、それによっ

濃厚接触者の追跡や消毒作業、休園休校の為の様々な手配ということだけでなく、いかにして感染者や濃厚接触者を守るかです。感染者や濃厚接触者を特定しようとする犯人捜しのようなことが行われ、それによっ

濃厚接触者の追跡や消毒作業、休園休校の為の様々な手配ということだけでなく、いかにして感染者や濃厚接触者を守るかです。感染者や濃厚接触者を特定しようとする犯人捜しのようなことが行われ、それによっ

濃厚接触者の追跡や消毒作業、休園休校の為の様々な手配ということだけでなく、いかにして感染者や濃厚接触者を守るかです。感染者や濃厚接触者を特定しようとする犯人捜しのようなことが行われ、それによっ



濃厚接触者の追跡や消毒作業、休園休校の為の様々な手配ということだけでなく、いかにして感染者や濃厚接触者を守るかです。感染者や濃厚接触者を特定しようとする犯人捜しのようなことが行われ、それによっ



濃厚接触者の追跡や消毒作業、休園休校の為の様々な手配ということだけでなく、いかにして感染者や濃厚接触者を守るかです。感染者や濃厚接触者を特定しようとする犯人捜しのようなことが行われ、それによっ

幼稚園・認定こども園の保育内容の基準が示されている、幼稚園教育要領、認定こども園教育・保育要領が2018年に改訂・施行されて以来、小学校・中学校・高等学校の学習指導要領もそれに続いています。これらの改訂では、教育で育む資質・能力として、「知識及び技能の習得・何かを知っている・できる」、「思考力、判断力、表現力等の育成・得た知識や技能を使って考えたり判断したり表現したりする」、「学びに向かう力、人間性の涵養・学んだことを人生や社会に生かそうとする姿勢をじっくり育む」という3つの柱が共通に示されるようになりました。すなわち今の日本の教育は、0歳〜18歳までの子どもの教育を同じ目標をもつ一連の流れとして捉えるようになってきているのです。

藤女子大学人間生活学部保育学科 教授 高橋 真由美

これからの世界を生きる子ども達



幼稚園・認定こども園の保育内容の基準が示されている、幼稚園教育要領、認定こども園教育・保育要領が2018年に改訂・施行されて以来、小学校・中学校・高等学校の学習指導要領もそれに続いています。これらの改訂では、教育で育む資質・能力として、「知識及び技能の習得・何かを知っている・できる」、「思考力、判断力、表現力等の育成・得た知識や技能を使って考えたり判断したり表現したりする」、「学びに向かう力、人間性の涵養・学んだことを人生や社会に生かそうとする姿勢をじっくり育む」という3つの柱が共通に示されるようになりました。すなわち今の日本の教育は、0歳〜18歳までの子どもの教育を同じ目標をもつ一連の流れとして捉えるようになってきているのです。



幼稚園・認定こども園の保育内容の基準が示されている、幼稚園教育要領、認定こども園教育・保育要領が2018年に改訂・施行されて以来、小学校・中学校・高等学校の学習指導要領もそれに続いています。これらの改訂では、教育で育む資質・能力として、「知識及び技能の習得・何かを知っている・できる」、「思考力、判断力、表現力等の育成・得た知識や技能を使って考えたり判断したり表現したりする」、「学びに向かう力、人間性の涵養・学んだことを人生や社会に生かそうとする姿勢をじっくり育む」という3つの柱が共通に示されるようになりました。すなわち今の日本の教育は、0歳〜18歳までの子どもの教育を同じ目標をもつ一連の流れとして捉えるようになってきているのです。

幼稚園・認定こども園の保育内容の基準が示されている、幼稚園教育要領、認定こども園教育・保育要領が2018年に改訂・施行されて以来、小学校・中学校・高等学校の学習指導要領もそれに続いています。これらの改訂では、教育で育む資質・能力として、「知識及び技能の習得・何かを知っている・できる」、「思考力、判断力、表現力等の育成・得た知識や技能を使って考えたり判断したり表現したりする」、「学びに向かう力、人間性の涵養・学んだことを人生や社会に生かそうとする姿勢をじっくり育む」という3つの柱が共通に示されるようになりました。すなわち今の日本の教育は、0歳〜18歳までの子どもの教育を同じ目標をもつ一連の流れとして捉えるようになってきているのです。

かけがえのない温もりの中で

岩見沢天使幼稚園 保護者 永原 成奈



私たちの日常は、何の前触れもなく一転しました。感染拡大から一年以上が経ち、毎日が選択の連続で、ふと振り返ると正しい選択ができていいのか、わからなくなるような日々が過ぎている様に思います。

昨年、未就園児クラスから登園している娘たちも、それぞれが憧れの年中さん・年少さんとなり、新生活への期待に心を弾ませていた矢先の休園。どうして幼稚園に行けないの?と悲しむ娘たちに、胸が痛みました。

そんなある日に、幼稚園から届いた大きな封筒。おうちで楽しむことが出来るよう、たくさんの工作セットにぬりえ、先

生による動画配信など、先生方の温かい思いやりの気持ちが詰め込まれた贈り物に、目を輝かせる娘たち。立場など関係なく、それぞれが不安な毎日を送っている中で、離れていながらも子ども達のために思考を巡らせ、愛情を注いでくださる天使幼稚園の温もりを改めて感じ思いがこみ上げました。娘たちの人生の土台が、かけがえのない温もりの中で育まれていることに感謝しています。

登園が再開されてもなお、活動の制限などが続いている状況にありますが、日常の中に思いやりや愛情と言う宝物を見つけながら、一日一日を大切に歩んでいきたいと思います。



長沼カトリック聖心幼稚園

優しい期待を受けて

教諭 小山 恵

念願だったカトリック幼稚園の教諭になり、今年度はクラスの補助という立場で園生活が始まりました。私に与えられた業務の一つとして、毎日降園バスに乗車することになりました。

始業式の帰りのバスでのことです。きっと保護者の方は驚いたことでしょう。いつものバスに、知らない先生が乗っているのですから。それなのに、「よかったね!新しい先生が来てくれたんだね。」「優しい先生だね。」「これからどうぞよろしく願い致します。」と、多くの方が初対面の私に対し優しいお声掛けをくださいました。

きっとこれまで、子どもやご家族の皆様と真摯に向き合って丁寧に保育をしてきた先生方の信頼感があるからこそ、そのような眼差しが私に向けられているのだろうと心から感謝し、また身が引き締まる思いがいたしました。バス停ではほんの30秒程度の時間しかないのですが、保護者の皆様に幼稚園の様子をお伝えし、明日も安心して大切なお子様を預けていただけるよう心掛けていきたいと思っています。

虹の森カトリック幼稚園

育ち合う姿

教諭 内田 那実

今年もたくさん子ども達と出会い、新しい年度がスタートしました。自園は縦割り保育を行っており、縦割りならではの関わりの中で子ども同士が成長し合う場面を見る度、喜びを感じると同時に、私自身も子ども達から教えてもらう事が沢山あります。

年度初め、まだお祈りの時間が分からない年少さんが、自由に動いていました。ある時、いつものように先生が声を掛けようすると、一人の年長さんがさっとその子のそばに来て手を繋ぐと、その瞬間ピタッと動きが止まり、ニッコシしながら一緒に祈りを始めました。その日をきっかけに毎日みんなと一緒に祈りが出来るようになったのです。

また卒園を間近に控えた、お楽しみ給食の日の事です。どうしてもぶどう味のゼリーがいいと泣いている年少さんがいました。その様子を見ていた一人の年長さんが、私のゼリー食べていいよと譲ってくれました。年長さんが好きな物を選ぶ、年に一度の特別な機会だったにも関わらず、思いやりの気持ちの方が勝ったのです。

今まで年上のお友達や先生が小さな子に関わる姿や、自分がしてもらった経験から学び、自然とお友達に出来ることを考え、行動する姿に嬉しくなります。これからも子ども達の成長を楽しみに見守っていききたいと思います。

登別カトリック聖心幼稚園

コロナ禍で見た繋がり

主任 工藤 葉月

昨年度からコロナウイルスが猛威を振るい、私たちの生活が一変しました。子ども達の可愛い顔はマスクで覆われ、沢山抱きしめたいのに、本当に良いのかな?と考えなければいけなくなりました。

昨年の緊急事態宣言が出た時には、子ども達の声で賑わっていた幼稚園も静まり返る日々が続きました。『子ども達に会いたい』『今何しているのかな』と気になって仕方がなかったので連絡ツールアプリを使い、メッセージのやりとりをしました。普段では見られないような表情の子ども達の写真や、お母さん方からの『先生方は大丈夫ですか?』『先生の顔を見て元気になりました!』『一緒に頑張りましょう!』等の言葉に沢山励まされました。多くの行事が変更になったり、参観日も中止になりましたが、昨年の年度末アンケートには「いつもありがとうございます」「色々考えて下さり、感謝しています」等々、見渡す限り『ありがとう』の言葉でいっぱいになっていました。

コロナウイルスで暗い世の中となりましたが、労いの言葉やありがとうの言葉で溢れ、心の中は温くなりました。この状況下でも、できる限り最高の保育、教育ができるよう知恵を振り絞り、皆さんに恩返しをしていきます!

苫小牧聖母幼稚園

神様がわかるでしょう

園長 青山 邦子

♪美しいこの空を 愛らしいこの花を 浮かんでる白い雲 香りよき青草を
じっと眺めるだけで ただ眺めているだけで ほら きみもわかるでしょう
神様がわかるでしょう♪

これは「神様がわかるでしょう」という聖歌の歌詞です。子どもたちは神様の存在をどのように感じるのでしょうか。

新緑が輝き、花々がカラフルに咲き始める5月。カトリック教会では聖母マリアに特別に祈りを捧げる聖母月です。当園はマリア様のお名前をいただいた聖母幼稚園。5月にはマリア祭が行われ、大好きな私たちのお母さまのマリア様に祈りと花を捧げます。小さな手を合わせ祈るとき、子どもたちの心は、神様の存在を意識し、感謝や他者を思いやる言葉に溢れます。

幼稚園で神父様から聞く聖書のお話は子どもたちの心に種をまき、やさしい心の花を咲かせます。そして最も神様の愛を感じるの家庭で愛される喜びでしょう。家庭は神様がくださる愛を、そして愛されている自分を感じる場所です。幼稚園は家庭と同じように、一人ひとりを愛し大切にします。それがカトリックの園です。

今日も、子どもたちが園庭で摘んだ花をマリア様に捧げています。見えないけれどやさしい心の花束がキラキラ輝いています。

笑顔いっぱい
さんぽみち